

(1) 中間の流通をもっと利用しよう

青果物価格の乱高下が中々収まらないままですね。春先から夏場まで不順な天候に揺さぶられて、出回り数量が極端から極端に増減し、卸売市況や店頭での小売価格に影響を及ぼしています。かつては野菜供給安定基金による緊急放出などで高騰時の対応策が為されたこともありましたが、今は過剰になった時の生産者保護に偏っており、需給の変動を和らげるセーフティネットは機能していません。結果的に安定を求める消費サイドとのミスマッチが大きいままに、生産環境の変化による出荷数量の増減によってのみ生きるしか途がないようです。

天候条件に左右されがちな野菜では、旬・月という短期的な騰落の巾は大きいものです。品目によっての違いはあるものの、多くは年1作ではなく複数作が可能ですし、産地も移動して補完し合って中・長期には比較的穏やかな動きに落ち着くものです。しかし、消費者サイドでは、スーパーなど量販店の増加によって仕入の効率化の為の計画が優先されて、産地事情を無視した流れを作りたがります。また小売店ばかりでなく業務用需要者やこれに付帯した加工業者なども含めたバイイング・パワーの強まりが、結果的に輸入品の増を招くことにつながってしまう実態ではないでしょうか。

と云いながら消費の盛り上がりは一部にみられるものの、多くは少子高齢化で市場は縮み傾向がみられます。都市部においては人口の集中化もない訳ではありませんが、共働きや単身者・高齢世帯などが入り乱れており、食の貧困が際立って来ていると云わざるを得ません。夏の猛暑で野菜売場が空になった時に野菜ジュースがカヴァーしていたスーパーがありました。これ1本で野菜は充分・・・とマネキンさんの声でしたが、本当にそうなのでしょうか。忙しい毎日の生活に追われて弁当や加工食品に頼る食が常態化していませんか。

作り、流通させ、消費する青果物ですが、工業製品などと決定的に異なるのは作る側・食べる側の最末端が極度に微細なものであり、それに比して中間の流通に関わる部分が巨大化し易いことでしょう。それ故に力関係を誇示してのプレッシャーを掛ける面が強調され易いのですが、生産から販売に至る円滑なモノの流れを首尾一貫して作り上げる機能は大切なものです。消費する側からは購入代行者として、作る側からは販売代行者として中間流通に関わる業者をもっともっと効果を挙げられるように利用すべきではないでしょうか。

(鈴木重雄筆)